



第 20 期
中間事業報告書
平成17年1月1日～平成17年6月30日

 **株式会社エスビーエス**
〒131-0034 東京都墨田区堤通1-19-9
TEL 03-5655-6110 (代表) FAX 03-5655-6180

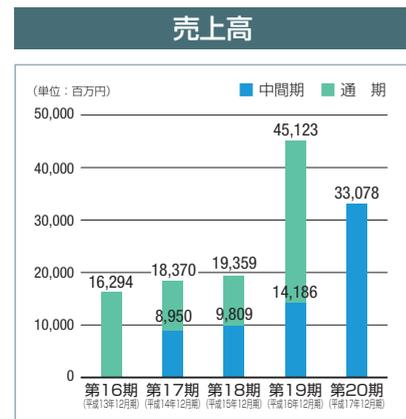


株式会社エスビーエス

■ 連結業績ハイライト

科目		第16期 (平成13年12月期)	第17期 (平成14年12月期)	第18期 (平成15年12月期)	第19期 (平成16年12月期)	第20期 (平成17年12月期)
売上高	中間期	—	8,950	9,809	14,186	33,078
	通期	16,294	18,370	19,359	45,123	—
営業利益	中間期	—	161	221	310	459
	通期	415	280	431	668	—
経常利益	中間期	—	124	188	270	442
	通期	289	264	367	663	—
当期(中間)純利益	中間期	—	54	67	103	228
	通期	287	154	193	217	—
1株当たり当期(中間)純利益	中間期	—	7.043	4.281	2.854	1,799
	通期	36.339	13.773	12.146	1.849	—
総資産	中間期	—	5,661	5,653	22,636	74,428
	通期	4,951	6,796	5,579	22,777	—
株主資本	中間期	—	1,117	1,302	8,599	8,888
	通期	1,059	1,227	1,609	8,720	—

(注) 第16期(平成13年12月期)の中間期の数値は開示しておりません。



■ ごあいさつ



代表取締役 鎌田 正彦

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
当社第20期中間事業報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

エスビーエスグループは、「事業インフラプロバイダー」を標榜し、物流を中心とする企業のアウトソーシングニーズに対し包括的かつワンストップでサービスを提供することを目指してまいりました。そのために、昨年7月に当社グループは、当社を持株会社とする持株会社制に移行し、当社を中心に異なる事業特性や企業文化を持つ事業会社とその周囲を取り囲むことにより、各事業会社の持つ特性を活かした有機的なホールディングス・カンパニーとして一体経営し、お客様の多岐に亘るニーズに応えております。

当中間期では、既存事業の収益力の向上を図りながら、積極的にグループ力の拡充も推進してまいりました。中核である物流事業では、今年1月に引越の専業大手企業であるダックグループを、また、3月には同じく引越業のさくら運輸(株)をグループに迎え、当社グループの物流事業では初のB to C事業がスタートしました。現在この2社は(株)ダックとして経営統合し、より質の高いサービスの提供と、業務の効率化を進めております。また、6月には大手物流企業である東急ロジスティックグループ他2社が新たに当社グループに参加しました。これにより、当社グループの既存事業とさまざまなシナジーを見込んでおります。そして、新規事業分野では、エコロジーと資源の再利用を意識した「環境事業」において、関東圏でトップクラスの産業廃棄物中間処理能力を持つ最新施設を取得し、グループ内外からの廃棄物の運送・処理の需要増加に対応できる体制を整備いたしました。

以上の結果、当社グループの業績は、連結売上高は33,078百万円、経常利益は442百万円、中間純利益は228百万円となりました。

なお、当社株式はジャスダック証券取引所より、JASDAQ市場を代表する企業群として位置付けられております「J-Stock銘柄」に新規選定されました。今後も株主の皆様のご期待に沿うべく、より一層の精進に励んでいく所存でございます。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

当中間期のトピックス

- 1月 (株)ダックの株式取得(90.01%)
- 3月 さくら運輸(株)の株式取得(100%)
- 3月 産業廃棄物中間処理施設取得(日量155t)
- 5月 JASDAQ市場の「J-Stock銘柄」に選定
- 6月 東急ロジスティック(株)の株式取得(94.1%)、日本貨物急送(株)の株式取得(96.5%)、伊豆貨物急送(株)の株式取得(85.8%)
- 6月 平成17年12月期中間連結売上高33,078百万円を達成

■ 連結業績の概要

当中間期の概況

人材部門を中心とするアウトソーシング事業の堅調な伸び、フーズレック株式会社および株式会社ダックの収益寄与により大幅な業績拡大を達成いたしました。

当中間期の物流を中心とするアウトソーシング市場は、価格競争が熾烈さを増し、取り巻く環境は非常に厳しい状況にありました。

当社グループでは、人材部門を中心とするアウトソーシング事業が引き続き堅調に伸びたこと、フーズレック(株)の業績が通期で寄与したこと、及び期首に子会社化した(株)ダックが新たに連結業績に取り込まれたこと、即配事業が競争優位性の向上により、売上が順調に伸びたことなどにより、業容は拡大いたしました。

その結果、当中間連結会計期間の売上高は33,078百万円(前年同期比133.2%増)、営業利益459百万円(前年同期比48.1%増)、経常利益442百万円(前年同期比63.6%増)、中間純利益228百万円(前年同期比121.4%増)と増収増益を達成することができました。

また当社グループは、今後も、郵政の民営化による業界の再編や競争の激化等に対応すべく、当社グループ独自のサービス体制の強化と規模の拡大に注力してまいります。

● 通期の業績見通し

通期の我が国経済は、輸出は緩やかながらも増加傾向を辿り、生産もIT関連分野における調整が進むもとで、徐々にではあるが景気は回復していくものと予想されます。

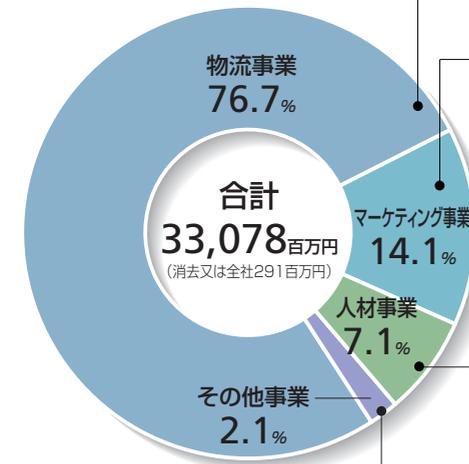
このような状況下で、事業を取り巻く環境は依然厳しいものの、東急ロジスティック株式会社の業績が下期はフルに寄与することもあり、通期の業績は売上高86,302百万円(前期比91.3%増)、経常利益1,879百万円(前期比183.1%増)、当期純利益1,336百万円(前期比514.2%増)を見込んでおります。

売上高	86,302 百万円
経常利益	1,879 百万円
当期純利益	1,336 百万円
1株当たり当期純利益	10,517 円

(注) 上記の業績予想は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づいて算定しており、リスクや不確定要素の変動及び経済情勢等の変化により、実際の業績は、本資料における見通しと大きく異なる可能性があります。

セグメント別概要

セグメント別売上構成比 (注)2



● 物流事業 25,610 百万円 (注)1

新たに連結子会社となった引越サービスの(株)ダックの加入及びフーズレック(株)の業績が通期で寄与したこと並びに即配事業の売上が順調に伸びたことで当セグメント全体としては売上高25,610百万円(前年同期比251.4%増)、営業利益508百万円(前年同期比214.2%増)を確保することができました。

● マーケティング事業 4,688 百万円 (注)1

メーリングサービス事業は、昨年10月より日本郵政公社の積極策に伴う価格競争激化、また個人情報保護法の施行に伴うコスト増により取扱数は伸びたものの売上は伸び悩みました。加えて前年同期のような地域情報調査プロジェクトの受注もなく営業赤字を余儀なくされました。セグメント全体としては、売上高4,688百万円(前年同期比7.7%減)、営業利益△51百万円(前年同期比118.2%減)という結果になりました。

● 人材事業 2,360 百万円 (注)1

倉庫内の軽作業請負、人材派遣業務ともに需要は根強く、売上は順調に拡大しましたが、事業拡大のために出店ペースを早め、そのため募集コストがかさみ収益を圧迫しました。その結果、当セグメントの売上高は2,360百万円(前年同期比13.8%増)で増収となりましたが、営業利益は121百万円(前年同期比8.5%減)となりました。

● その他事業 709 百万円 (注)1

お客様に対し、包括的にワンストップでフルサービスが提供できるよう、グループ企業の進化と新しいサービスの開発に重点を置いており、「金融」、「情報」、「環境」の新しい事業分野に進出いたしました。

(注)1 セグメント別売上高は、連結調整前ベースです。

(注)2 セグメント別売上構成比は、連結調整前ベースにて算出しております。

物流を中心としたアウトソーシングニーズに応える「事業インフラプロバイダー」を目指して

エスピーエスグループは、企業の競争優位戦略をサポートし、利益に貢献するため、「事業インフラプロバイダー」という企業コンセプトのもと、物流を中心とした総合アウトソーシング事業を展開しています。特集では、当社グループが提案する「事業インフラプロバイダー」についてご紹介します。



「事業インフラプロバイダー」と「ワンストップソリューション」

当社グループは、昭和62年(1987年)の創業以来、即日配送、マーケティング、システムインテグレーション、人材サービス、3PLサービス等、さまざまなサービスの拡充を図るとともに、お客様の業務プロセスをワンストップでサポートするサービス体制を築いてきました。

その結果、当中間期末時点において、当社グループ企業は連結対象子会社27社を擁する総合アウトソーシンググループに成長しました。

「事業インフラプロバイダー」とは、こうした事業子会社によるシナジー効果を最大限に発揮させ、お客様の多様なニーズに最適なビジネスプラットフォームを提供します。そして、お客様がコア・コンピタンスに集中投資できる環境の整備をサポートし、競争優位性を高めていただくという考え方です。

東急ロジスティック株式会社の子会社化で強力な物流事業を実現

東急ロジスティック(株)の株式取得は、東京急行電鉄(株)の保有する株式を公開買付けで実現いたしました。あわせて、関連会社である日本貨物急送(株)と伊豆貨物急送(株)の株式も取得いたしました。

東急ロジスティック(株)は輸送・保管をはじめ、流通加工、通運、重量物、引越、館内物流や産廃運搬など、多様な物流機能を有する大手物流企業であり、当社グループが有する物流サービスとの相互補完により、グループ全体にそのシナジーが見込めます。特に「低温物流」のフーズレック(株)とは強力なシナジーが発揮されるものと期待しております。また物流センターの新設・共用化による事業拡大なども見込めます。

なお、東急ロジスティック(株)は、平成18年1月より、商号を「ティーエルロジコム株式会社」に変更する予定です。

M&A戦略で、事業領域をさらに拡大

M&Aによる、グループと事業領域の拡大は当社グループにとって重要な戦略の一つです。

当中間期におけるM&Aは、1月のダックグループに始まり6月の東急ロジスティックグループ、日本貨物急送(株)、伊豆貨物急送(株)まで、「物流事業」を中心に合計9社に達しました。

この結果、当社グループの売上構成比は「物流事業」の比率が圧倒的に高くなりましたが、これは、今後予想される物流業界の再編に対処すべく、「物流事業」の「面」の拡大に重点を置いたためであります。

今後は、「物流事業」以外の事業分野においても積極的にM&A等を活用し、事業領域とグループの拡大を進めてまいります。また、このM&Aについても、敵対的な買収を強引に行うのではなく、友好的な企業提携による事業継続を前提としたM&Aを実施しております。これにより、グループにご参加いただいた企業も、その独自性や特色が失われることなく、また、新たな文化をグループにも加えていただき、結果として、グループ全体の価値がより向上する戦略を実施しております。

当社グループでは、今後も「事業インフラプロバイダー」という企業コンセプトのもと、総合アウトソーシング企業グループとして、お客様に多彩なサービスをご提供し、さらなる事業規模の拡大と拡充を推進してまいります。

株式会社ダック

個人顧客と直接取り引きしている(株)ダックと、チラシ配布など個人顧客との取り引き窓口を確立しているさくら運輸(株)のシナジーにより、物流サービス機能を強化いたします。

社名 (株)ダック
所在地 東京都府中市



東急物流3社

常温物流のほか、館内物流や、センター事業などの分野においても共同で事業を推進することで、競争力が大幅に向上することが期待されています。

社名 東急ロジスティック(株) 社名 日本貨物急送(株)
所在地 東京都品川区 所在地 神奈川県横浜市

社名 伊豆貨物急送(株)
所在地 東京都品川区



■ 中間連結財務諸表 (要旨)

中間連結貸借対照表

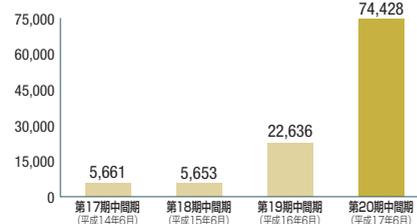
(単位：千円、単位未満は切り捨て)

科目	前中間期	当中間期
	平成16年6月30日現在	平成17年6月30日現在
資産の部		
流動資産	17,153,812	21,484,385
現金及び預金	9,591,552	6,727,710
受取手形及び売掛金	6,919,448	12,209,314
たな卸資産	98,309	276,215
その他	589,626	2,346,210
貸倒引当金	△45,124	△75,066
固定資産	5,482,781	52,944,183
有形固定資産	3,991,097	42,118,447
無形固定資産	87,637	325,016
投資その他の資産	1,404,046	10,500,720
投資有価証券	426,899	5,072,708
その他	1,004,763	5,492,617
貸倒引当金	△27,617	△64,605
繰延資産	—	314
資産合計	22,636,593	74,428,884

科目	前中間期	当中間期
	平成16年6月30日現在	平成17年6月30日現在
負債の部		
流動負債	9,798,888	36,440,824
支払手形及び買掛金	4,671,823	6,368,424
短期借入金	1,925,000	21,815,520
1年内返済予定長期借入金	949,681	1,233,706
未払費用	697,325	2,422,908
その他	1,555,057	4,600,264
固定負債	3,652,045	26,972,745
社債	690,000	360,000
長期借入金	2,236,453	7,268,188
その他	725,591	19,344,554
負債合計	13,450,933	63,413,569
少数株主持分		
少数株主持分	586,604	2,127,025
資本の部		
資本金	3,829,933	3,833,934
資本剰余金	3,921,643	3,925,723
利益剰余金	841,237	1,119,364
その他有価証券評価差額金	6,240	9,267
資本合計	8,599,054	8,888,288
負債、少数株主持分及び資本合計	22,636,593	74,428,884

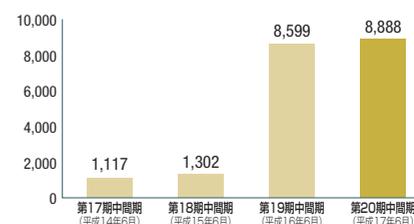
総資産

(単位：百万円)



株主資本

(単位：百万円)



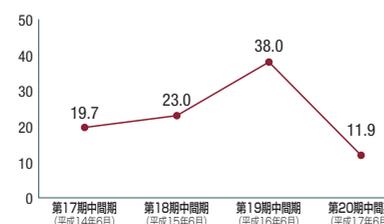
中間連結損益計算書

(単位：千円、単位未満は切り捨て)

科目	前中間期	当中間期
	平成16年1月1日から平成16年6月30日まで	平成17年1月1日から平成17年6月30日まで
売上高	14,186,895	33,078,259
売上原価	12,694,425	29,522,877
売上総利益	1,492,469	3,555,381
販売費及び一般管理費	1,182,045	3,095,644
営業利益	310,424	459,737
営業外収益	36,761	70,167
営業外費用	76,616	87,376
経常利益	270,569	442,529
特別利益	7,352	—
特別損失	9,465	22,235
税金等調整前中間純利益	268,457	420,293
法人税、住民税及び事業税	121,341	176,034
法人税等調整額	31,173	△29,658
少数株主利益	12,682	45,280
中間純利益	103,260	228,636

株主資本比率

(単位：%)



中間連結剰余金計算書

(単位：千円、単位未満は切り捨て)

科目	前中間期	当中間期
	平成16年1月1日から平成16年6月30日まで	平成17年1月1日から平成17年6月30日まで
資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	404,659	3,925,723
資本剰余金増加高	3,516,984	—
資本剰余金中間期末残高	3,921,643	3,925,723
利益剰余金の部		
利益剰余金期首残高	889,787	955,504
利益剰余金増加高	103,260	228,636
利益剰余金減少高	151,810	64,777
利益剰余金中間期末残高	841,237	1,119,364

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円、単位未満は切り捨て)

科目	前中間期	当中間期
	平成16年1月1日から平成16年6月30日まで	平成17年1月1日から平成17年6月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△554,923	342,220
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,737,629	△14,871,405
財務活動によるキャッシュ・フロー	10,975,022	15,320,137
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増加額	7,682,470	790,952
現金及び現金同等物の期首残高	1,487,125	5,385,929
現金及び現金同等物の中間期末残高	9,169,595	6,176,882

■ 会社の概況 (平成17年6月30日現在)

■ 会社概要

社名	株式会社エスピーエス
代表取締役	鎌田 正彦
創立	1987年(昭和62年)12月16日
資本金	38億3,393万円
所在地	〒131-0034 東京都墨田区堤通1-19-9 TEL：03-5655-6110(代表) FAX：03-5655-6180

■ グループ会社

● 物流事業

SBSロジテム株式会社
フーズレック株式会社
株式会社トランスワールド
株式会社富士総合物流研究所
株式会社ダック
さくら運輸株式会社^{(注)1}
東急ロジスティック株式会社
日本貨物急送株式会社
伊豆貨物急送株式会社
他10社

● マーケティング事業

SBSポストウェイ株式会社
マーケティングパートナー株式会社
有限会社フォワード

● 人材事業

SBSスタッフ株式会社

● 金融事業

株式会社エーマックス

● 情報事業

株式会社ビッグバン
株式会社AT&C
株式会社シーエスネット^{(注)2}

● 環境事業

株式会社総合物流システム

(注)1 さくら運輸株式会社は、平成17年7月1日付で株式会社ダックと経営統合いたしました。

(注)2 持分法適用関連会社

■ 役員

代表取締役	鎌田 正彦
取締役	大内 純一
取締役	入山 賢一
取締役	横澤由喜朗
常勤監査役	米田 樹一
常勤監査役	水谷 宣一
監査役	正松本重孝

監査役のうち、水谷宣一、正松本重孝は「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役です。

● IR情報、IRに関するお問い合わせに当社ホームページをご活用ください。



トップページ

IR情報ページ

<http://www.sbs-group.co.jp>

■ 株式の状況 (平成17年6月30日現在)

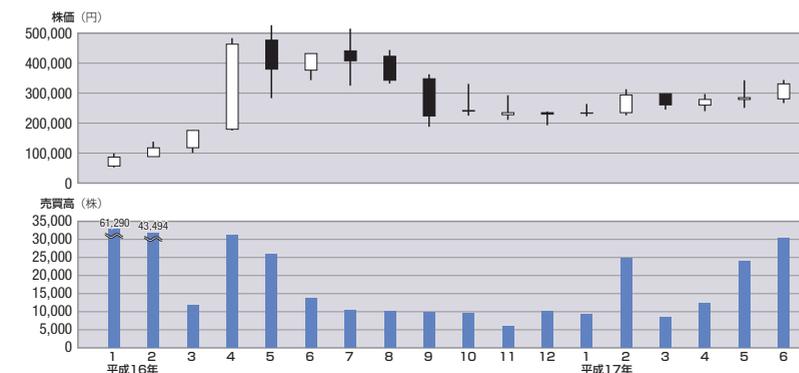
■ 株式情報

発行する株式の総数	379,440株
発行済み株式総数	127,032株
1単元の株式数	1株
株主数	6,776名

■ 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
鎌田 正彦	64,128	50.48
大内 純一	4,594	3.61
エスピーエス従業員持株会	3,357	2.64
日本証券金融株式会社	1,598	1.25
株式会社スリーイーコーポレーション	1,560	1.22
松井証券株式会社(一般信用口)	1,521	1.19
資産管理サービス信託銀行株式会社(年金信託口)	1,347	1.06
バンクオブニューヨークシーエムクライアントアカウント イーアイエスジー 常任代理人 株式会社東京三菱銀行	1,276	1.00
伊藤 和夫	1,012	0.79
松井証券株式会社(業務口)	866	0.68

■ 株価チャート



■ 株主メモ

決算期	12月31日
定時株主総会	毎年3月開催
基準日	利益配当金12月31日 中間配当金 6月30日
名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番3号 UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
お問い合わせ先	☎ 0120-111-698(オペレータ対応) ☎ 0120-244-479(音声自動応答・用紙ご請求専用)
同取次所	UFJ信託銀行株式会社 本店および各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞
会計監査人	中央青山監査法人
決算公告掲載アドレス	http://www.sbs-group.co.jp/ir/financiadata/index.html

(注) UFJ信託銀行株式会社は平成17年10月1日より三菱信託銀行株式会社と合併し、三菱UFJ信託銀行株式会社となる予定です。

■ 株主の皆様からの声をお待ちしております

当社では、株主の皆様からのご意見・ご質問をお受けしております。ご意見・ご要望がございましたら、お電話やおハガキ、メールにてお気軽にお寄せください。事業報告書に関するご意見もお待ちしております。